



# 岡山学芸館高等学校 マッド・コロネーズ

岡山県岡山市東区西大寺上1丁目19-19

## “里海の聖地”におけるアマモ場再生活動と 牡蠣殻を用いた干潟保全



### 干潟への牡蠣殻ネット設置の様子

#### Action

2018年7月、研究フィールドである米子湾干潟に清掃のため重機が入った。この人為的攪乱が干潟に生息するベントスたちにどのような影響を与えたのか調査した。調査方法には、1m<sup>2</sup>のコドラートを満潮汀線から滞筋にそって5m間隔で5つ設置し、その中のベントスを採集するコドラート法を用いた。優占種ウミニナはすべてノギスで長径を計測した。

2019年にはベントス量、ウミニナの優占率が大幅に減少した。しかし、2020年には干潮汀線に近いコドラートでベントス量が回復した。攪乱の有無による干潟表層の付着珪藻類クロロフィルa量の分析や、増加したウミニナの長径分布から、干潟表層の複雑性が回復し、日々の潮汐を「中規模攪乱」として生物多様性が回復していることが示唆された。さらに、今年度、ベントスのシェルターとなる牡蠣殻設置区を設け、さらなるベントス量回復が見られるか調査する。活動成果は、各種学会、中学校への出前授業などで発信を続けている。